

第53回 高輪築堤調査・保存等検討委員会【部会②】

日時：2025年3月5日（水）

全体会・部会①・部会②・部会③ 10:00～12:00（予定）

場所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 品川 ホール 5A

次 第

【部会②】

(1) 開会

(2) 駅街区北棟ビル国道側山留について 【資料1】

(3) 駅街区北棟ビル南東側山留について 【資料2】

(4) 南横仕切堤付近の京急連立仮受け・駅街区南棟山留について 【資料3】

(5) その他

(6) 閉会

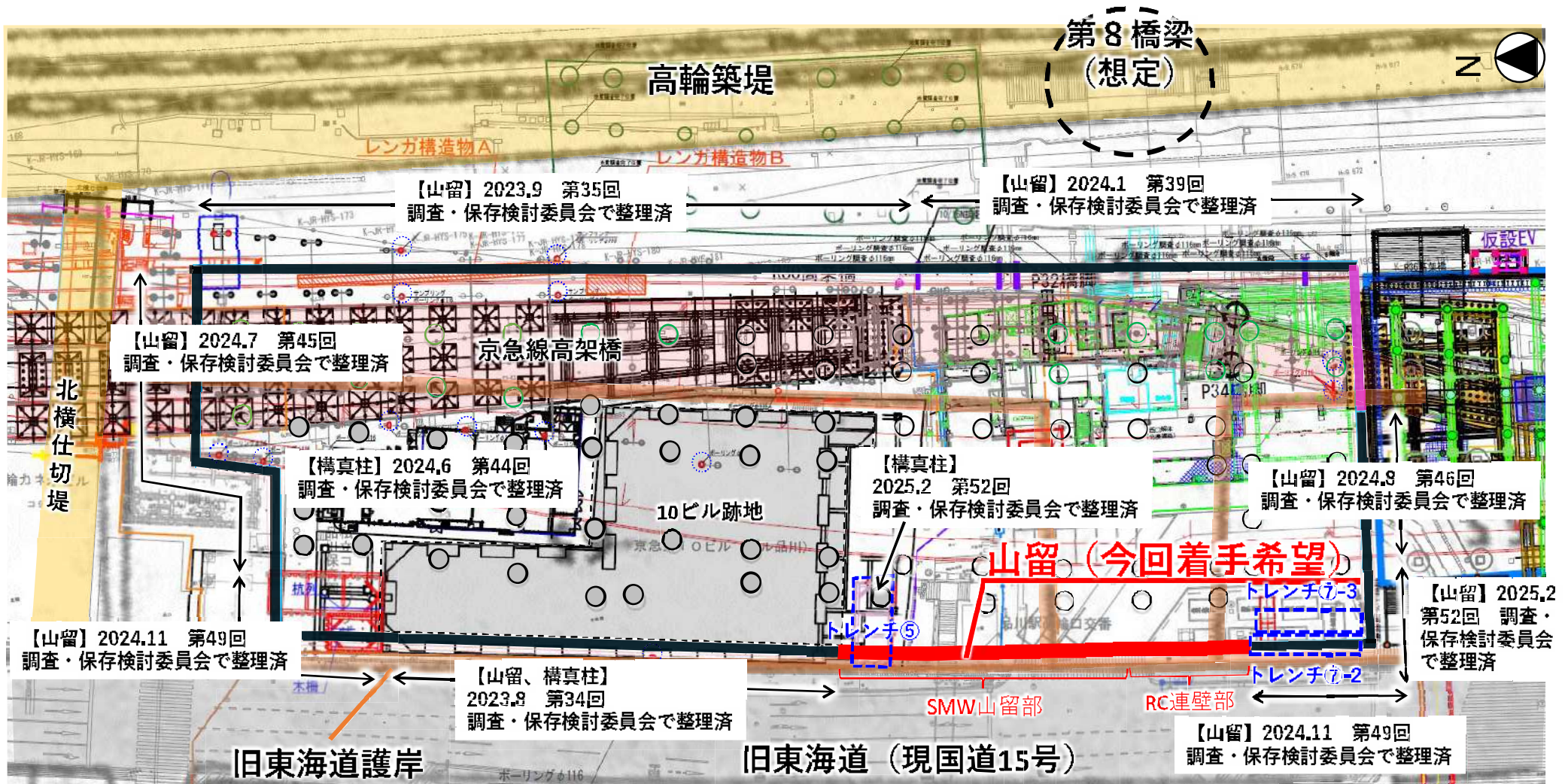
事業スケジュール厳守にむけ、以下の工事に着手したい

■今回工事着手希望内容（下図参照）

【工事数量】山留 延長約58m

うちRC連壁部 L=約13m、W=1.9m、H=25.8m (TP 3.2～-22.6m)

SMW部 L=約45m、W=0.85m、H=29.2m (TP 4.9～-24.3m)



■これまでの調査成果について

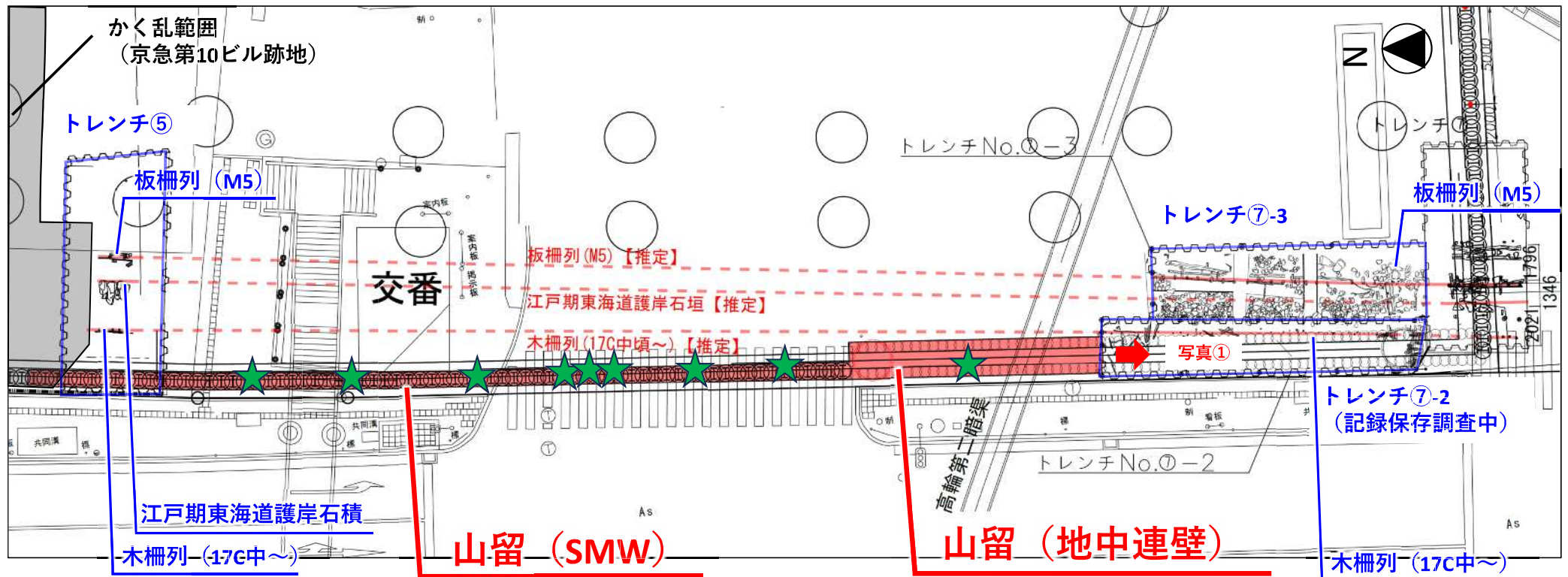
- ・これまでに実施したトレンチ⑤およびトレンチ⑦-2の調査で木杭列が出土。これらを列をもとに、遺構ライン（■■■■線）を推定。
- ・遺構および支障物の有無を確認するためボーリング調査を実施。（★印）
- ※ボーリング調査の結果は港区より報告



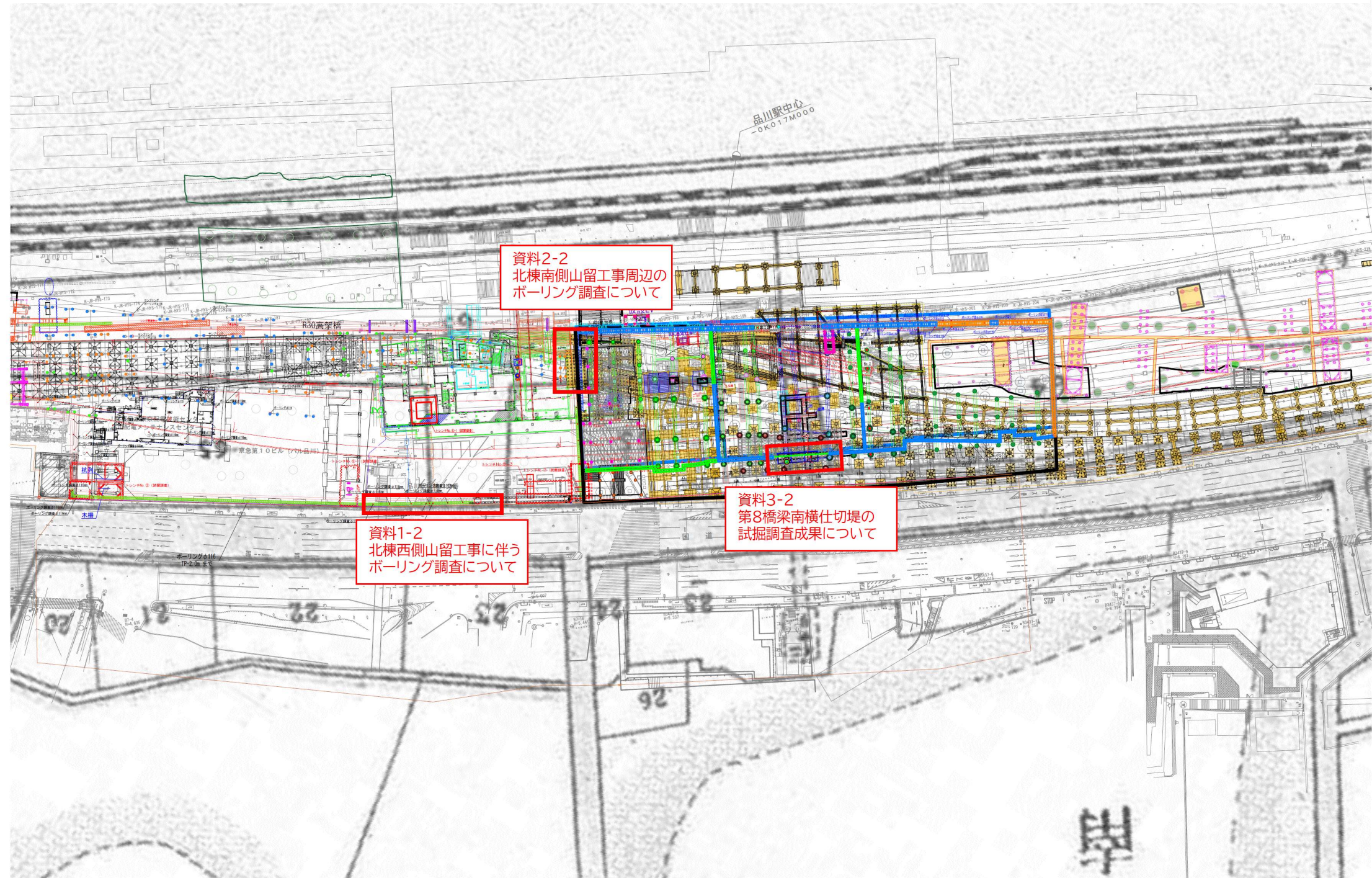
工事範囲と遺構推定ライン（■■■■線）が重なっていないこと、ボーリング調査の結果をもって工事着手したい



記録保存調査の過程で新たに確認した木杭列（17C中頃木柵列）



品川駅街区地区における調査の進捗について(2025年3月1日現在) S=1/1000



調査位置図 (S=1/500)

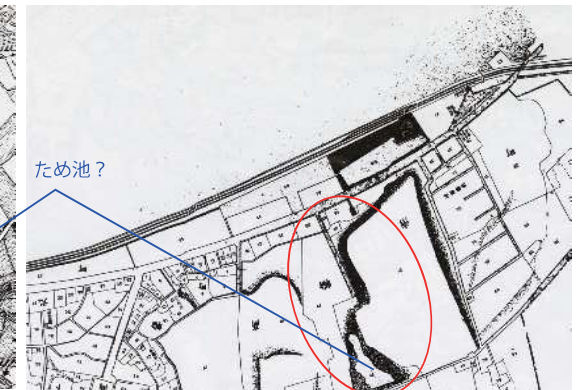
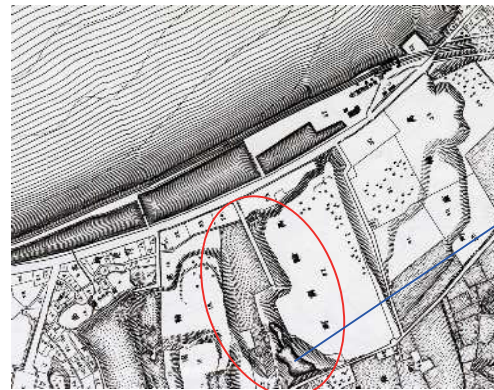
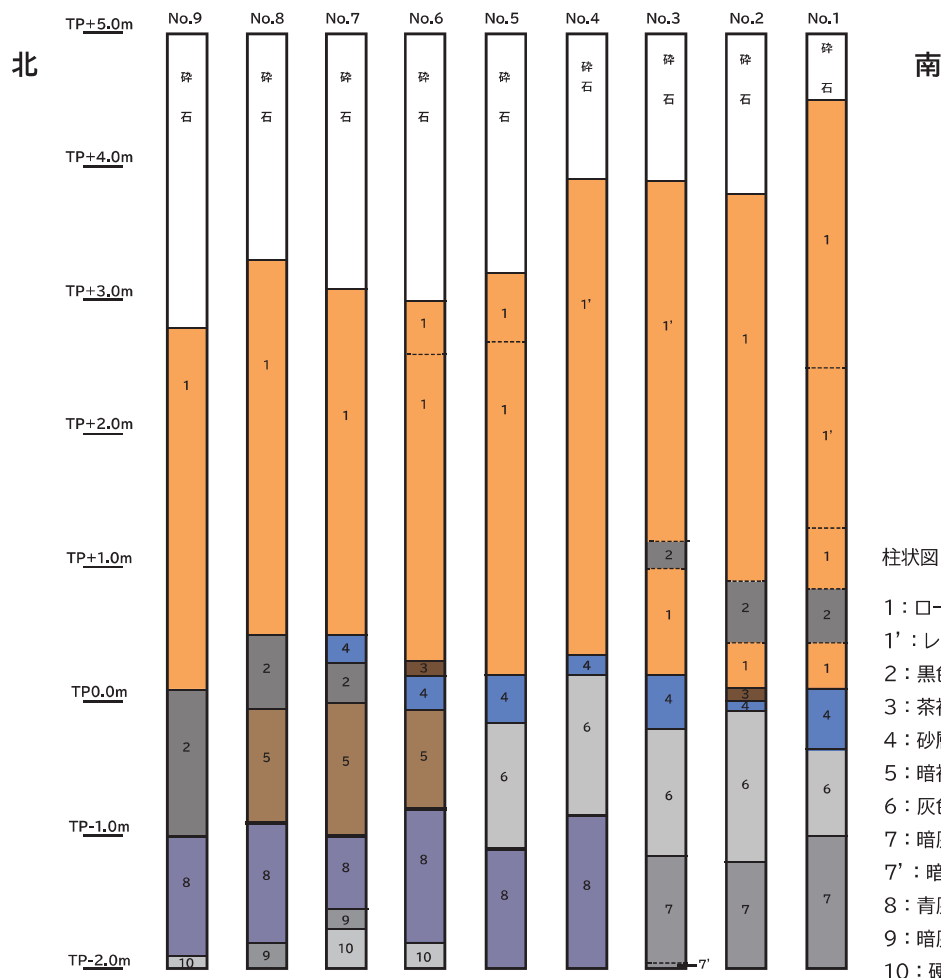


図1 内務省地理局「東京実測図」(明治20年)に加筆

図2 東京郵便電信局「東京芝区全図」(明治30年)に加筆



柱状図 (S=1/40)

- 1: ローム主体埋立土層
- 1': レンガ片を含む埋立土層
- 2: 黒色土層 (泥炭?)
- 3: 茶褐色砂層 (鉄分付着?)
- 4: 砂層 (粒径やや大きい、海砂に似る)
- 5: 暗褐色粘土層
- 6: 灰色シルト層
- 7: 暗灰色粘土層 (締まり弱い、泥土)
- 7': 暗灰色粘土層+青灰色粘土ブロック
- 8: 青灰色シルト層 (基盤層)
- 9: 暗灰色砂層 (基盤層)
- 10: 硬質粘土層 (基盤層)



調査区北西部 平坦面を覆う砂層と黒色砂利層 (※泉岳寺駅改良事業に伴う調査)

第31回高輪築堤調査・保存等検討委員会部会①資料から抜粋・再掲・加筆

【調査成果】

- ・TP+0.5mより上は、埋立土が確認されている (レンガ片を含む部分もある)。
- ・No.4~No.9の8層以下は基盤層と考える。
(硬質粘土層=10層が確認できたのはNo.6, No.7, No.9の3本)
- ・No.1~No.3では基盤層が確認できなかった。
- ・構造物と見られる木片、石片等は確認されなかった。
- ・基盤層の有無から、南側には谷のような落ち込んだ地形が想定される。
→図1・図2からも裏付けられる。
→舟が接岸しやすい場所を選んで荷上場を設置したか?
- ・No.2, No.6で確認されている3層 (茶褐色砂層) は、北側の泉岳寺駅改良事業に伴う調査で、類似したものを確認している。(17世紀前半の遺物が出土していることから、江戸時代初期の東海道整備等にかかる土地造成を知るヒントになる可能性がある)

No.1



No.2



No.3



No.4



No.5



No.6



No.7



No.8



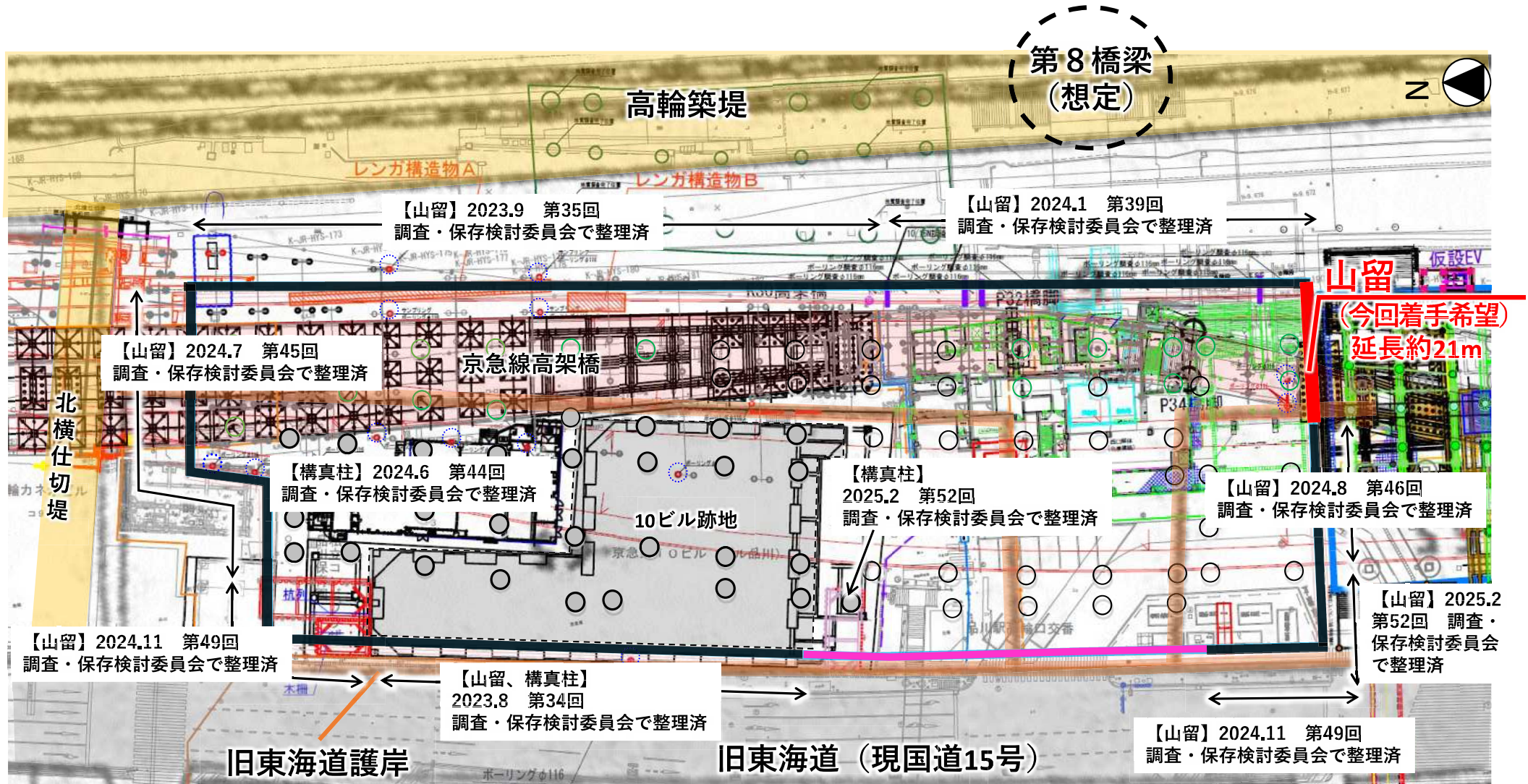
No.9



事業スケジュール厳守にむけ、以下の工事に着手したい

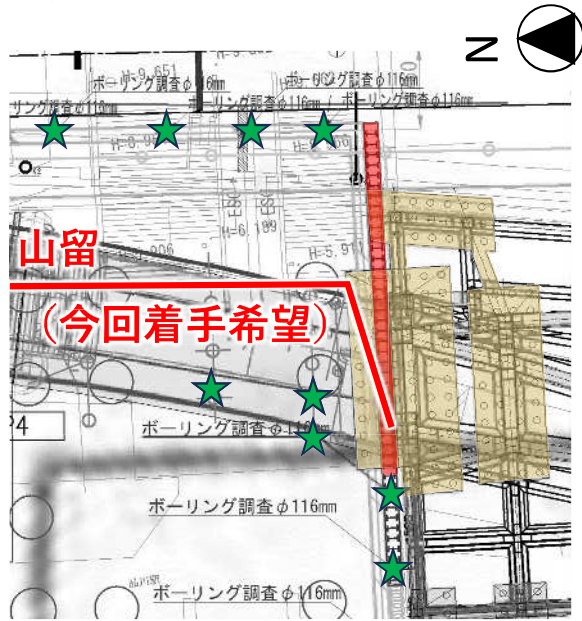
■今回工事着手希望内容（下図参照）

【工事数量】 山留 延長約21m、W=0.9m、H=27.5m（TP 3.2~-24.3m）

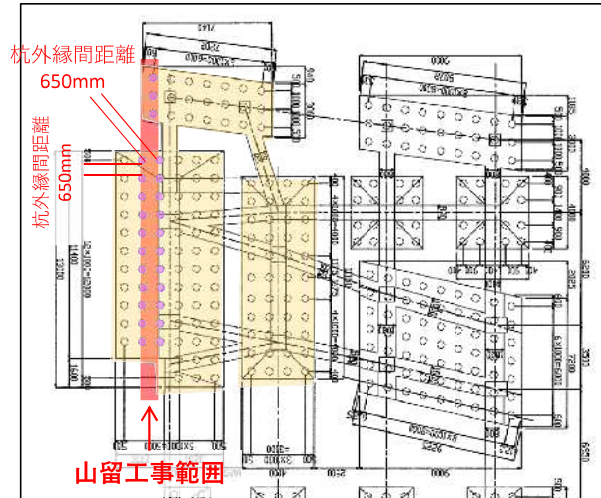


■工事範囲の現況について

- ・山留施工箇所付近には、京急線高架橋の基礎杭群（φ350mm、L=9m程度）が現存
- ・周辺地点ではこれまでにボーリング調査を実施（★印）

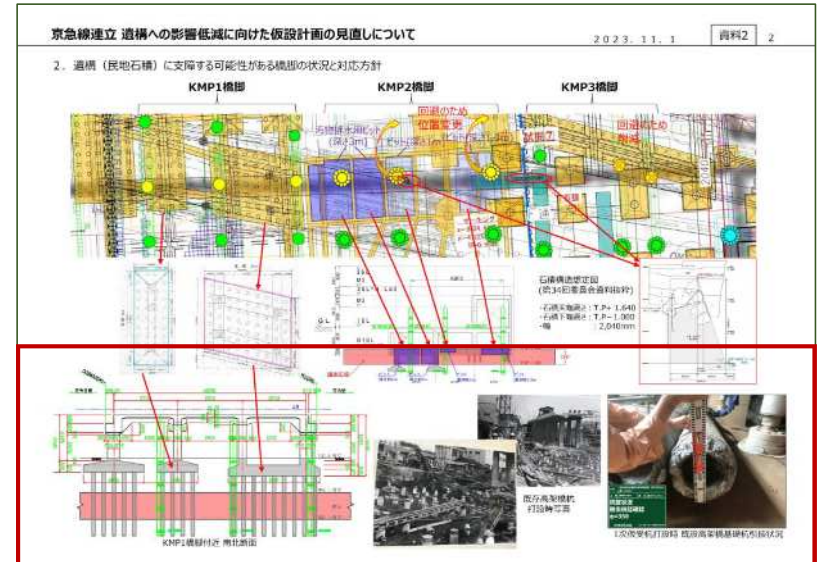


当該高架橋竣工図（京急電鉄様より提供）

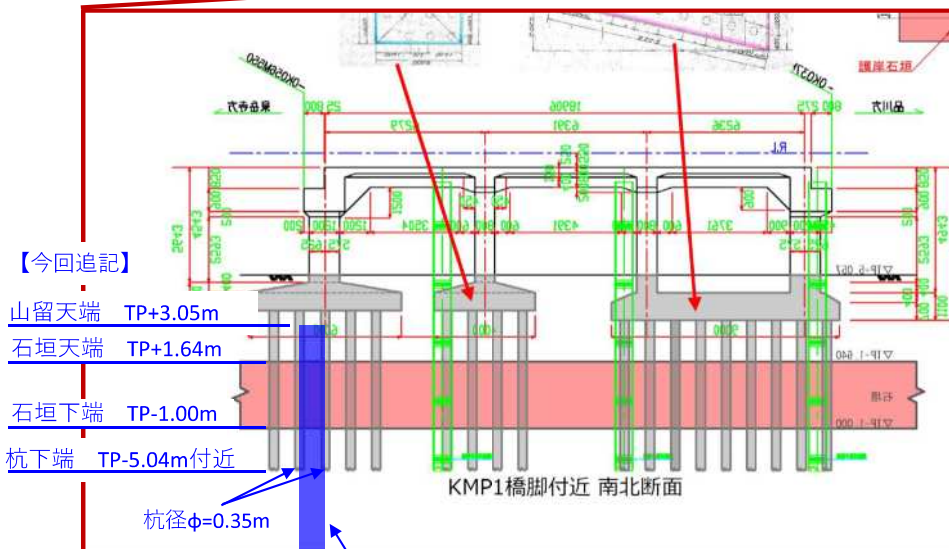


●・・・山留構築範囲と重なる群杭（φ350mm、L=9m程度）

2023.11.1 第37回委員会 部会②【資料2】再掲



赤枠部拡大（※青字等は今回資料で追記）



【今回追記】

- 山留天端 TP+3.05m
- 石垣天端 TP+1.64m
- 石垣下端 TP-1.00m
- 杭下端 TP-5.04m付近

山留（今回着手希望）【今回追記】

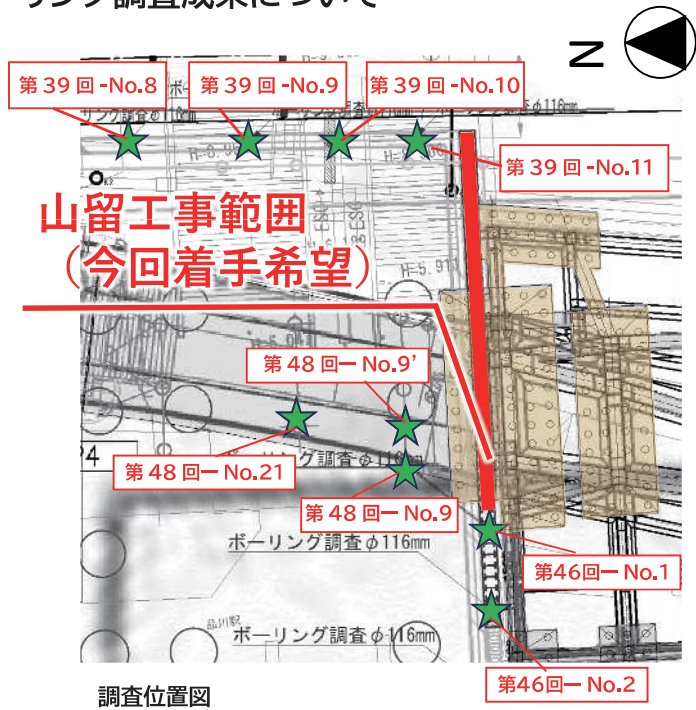


既存高架橋杭 打設時写真

1次仮受杭打設時 既設高架橋基礎杭引抜状況

周辺のボーリング調査成果について

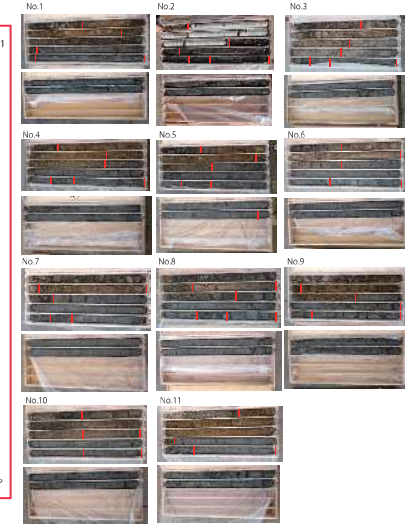
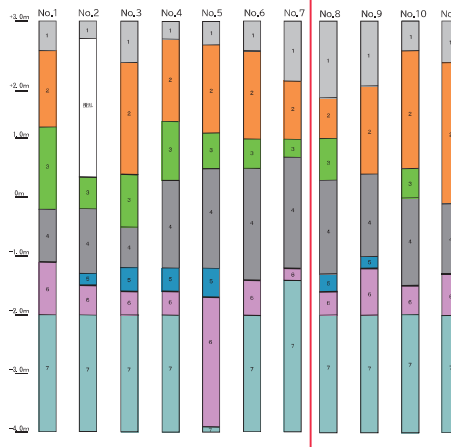
【資料 2-2】



第 39 回高輪築堤調査・保存等検討委員会 (2024 年 1 月 10 日開催) 部会②資料の再掲

【資料 1-2】

北棟東側 SMW 打設に伴うボーリング調査の成果
(調査実施期間：2023 年 11 月 21 日～25 日 ※No.2 は 12 月 11 日～16 日)



- 1：バラスト層
- 2：埋立て土（黄褐色年度ブロックを含む土）
- 3：内蔵砂利層（しまりなし）
- 4：黒褐色粘質土（粘土）
- 5：暗灰色シルト層（貝が埋じり、海砂?）
- 6：軟質粘土層（砂質強い）
- 7：硬質粘土層（粘板層あり）

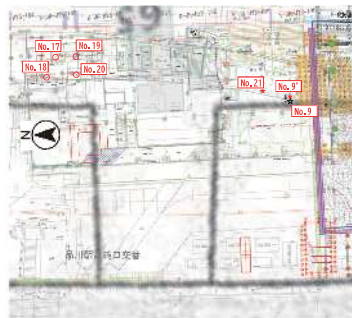
【調査所見】

- ・4層（泥土）の直上にローム土主体の埋立て土が露出する点は、周辺の調査所見と概ね一致する。
- ・3層は周辺の調査で確認されていない。
- ・基礎である硬質粘土層は、すべての地点で確認されており、検出標高は TP-1.5 ～ 2.0m である。
- ・No.5 は、硬質粘土層の検出標高が著しく低い、その原因が人為的なものか、自然（地形等）によるものかは判別できなかった。
- ・ボーリングコア中に遺物や、構造物の一部（木片等）は確認されていない。

第 48 回高輪築堤調査・保存等検討委員会 (2024 年 10 月 2 日開催) 部会②資料の再掲

【資料 2】

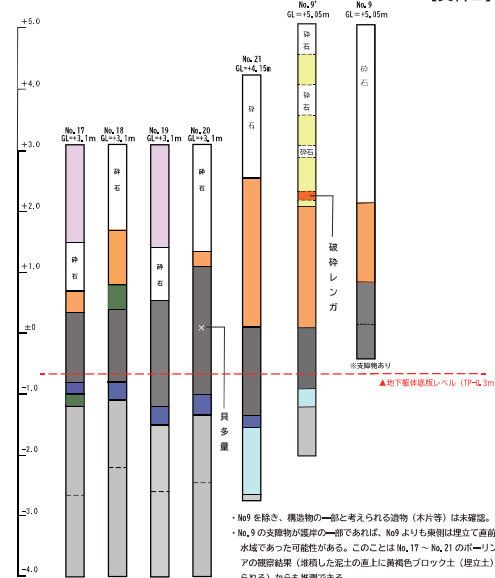
周辺のボーリング調査成果について



- 【凡例】 ※柱状図のスケールは 1/40、数字は標高値 (TP)
- コンクリート
 - 黒褐色シルト（貝片混じり）
 - ロームブロック土（炭化物含む）
 - オリブ色粘土ブロック
 - 黄褐色ブロック土（埋立土）
 - 軟質シルト（自然堆積層）
 - 暗灰色粘質土（泥土）
 - 硬質粘土層（自然堆積層）
 - 破線より上はやや軟質

ボーリング柱状図は、以下の資料から転載の上、土層の色彩を統一した。

- ・No.9：第 35 回検討委員会（2023 年 9 月 6 日開催）
- ・No.9'：第 36 回検討委員会（2023 年 10 月 4 日開催）
- ・No.17～No.21：第 44 回検討委員会（2024 年 3 月 6 日開催）
- ※No.21 は第 41 回検討委員会（2024 年 3 月 6 日開催）で写真報告。

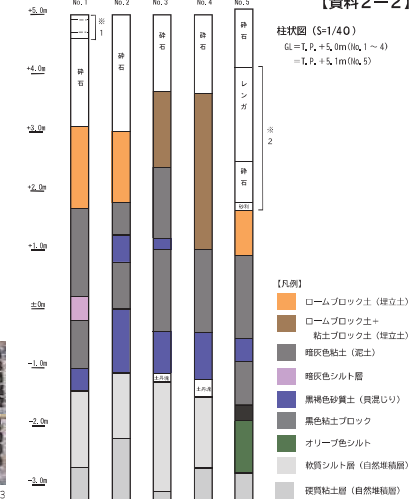
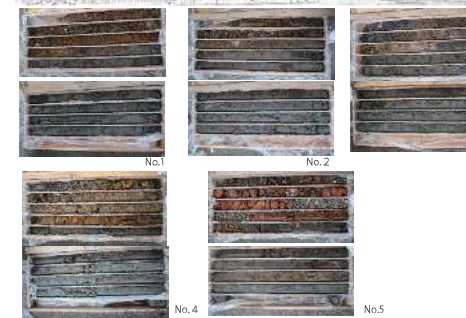
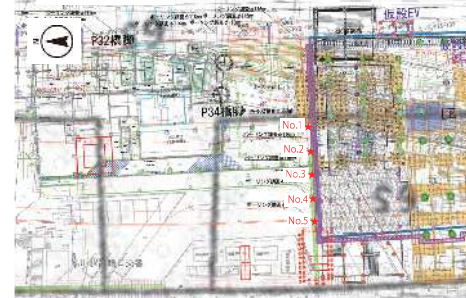


- ・No.9 を除き、構造物の一部と考えられる遺物（木片等）は未確認。
- ・No.9 の支障物が露出の一部であれば、No.9 よりも東側は埋立て直前まで水域であった可能性がある。このことは No.17～No.21 のボーリングコアの観察結果（埋積した土の直上に黄褐色ブロック土（埋立土）が見られる）からも推測できる。
- ・周辺のボーリング調査成果から、地下躯体が残存している範囲では、すでに泥土より上層の一部が、躯体構築時に撤去されている可能性がある。
- ・泥土の直下は黒褐色砂質土、その下は粘質土（硬質粘土層もしくは軟質シルト層）が確認されていることから、遺構が残存している可能性は極めて低いと考ええる。

第 46 回高輪築堤調査・保存等検討委員会 (2024 年 8 月 7 日開催) 部会②資料の再掲

【資料 2-2】

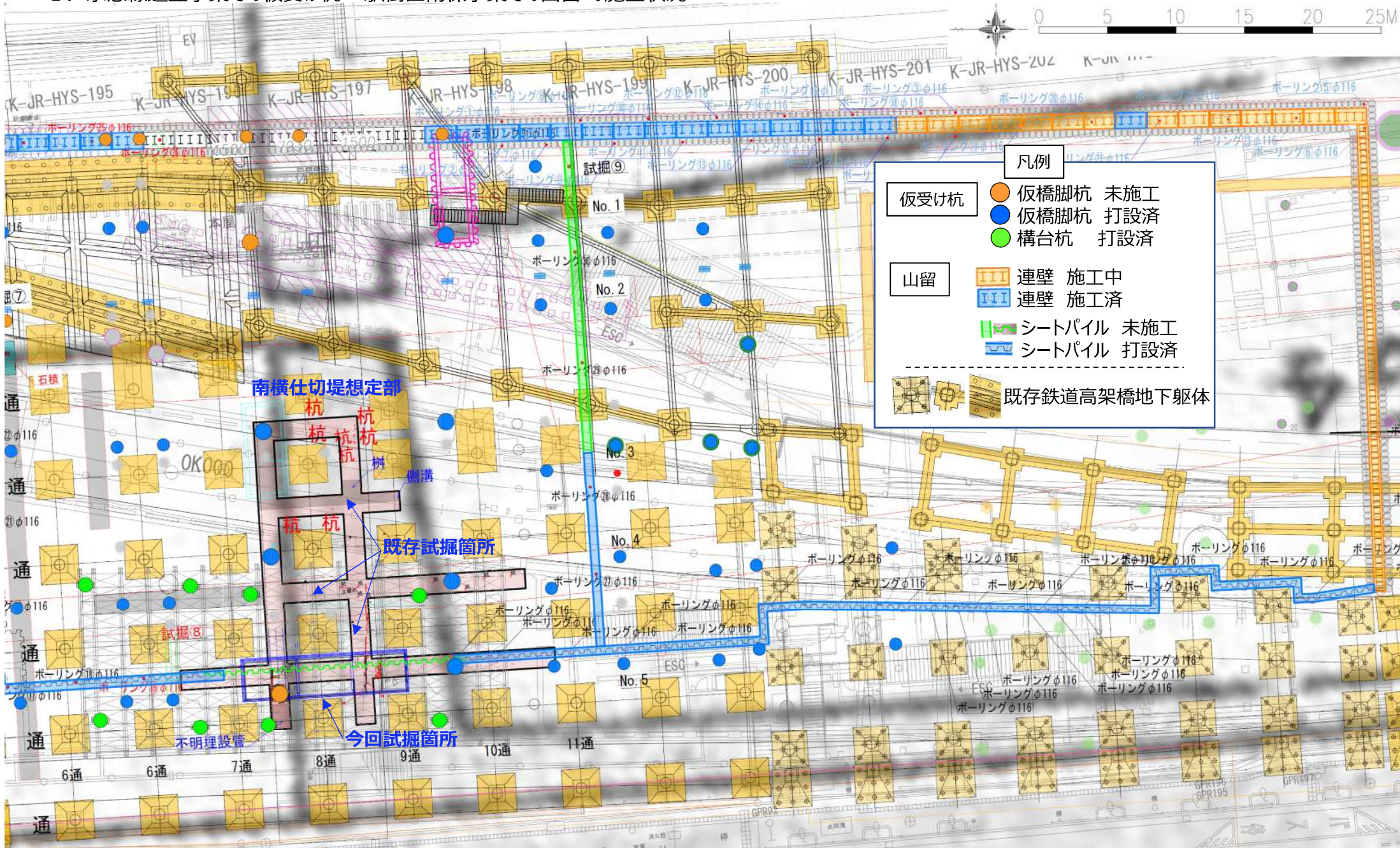
北棟南端部山留工事に伴うボーリング調査について



【調査所見】

- ・自然堆積層の上には黒褐色粘質土（貝混じり）、暗灰色粘土（泥土）、埋立土が露出する点、周辺の調査成果と同じである。
- ・No.1～No.4 では、自然堆積層上層は、TP-1.4 ～ -1.5m で確認されているが、No.5 では著しく低い (TP-2.8m)。要因は不明（地形によるもの or 人為的なもの）
- ・構造物の一部と見られるもの（木片・石片等）は確認されなかった。

1. 京急線連立事業での仮受け杭・駅街区南棟事業での山留の施工状況

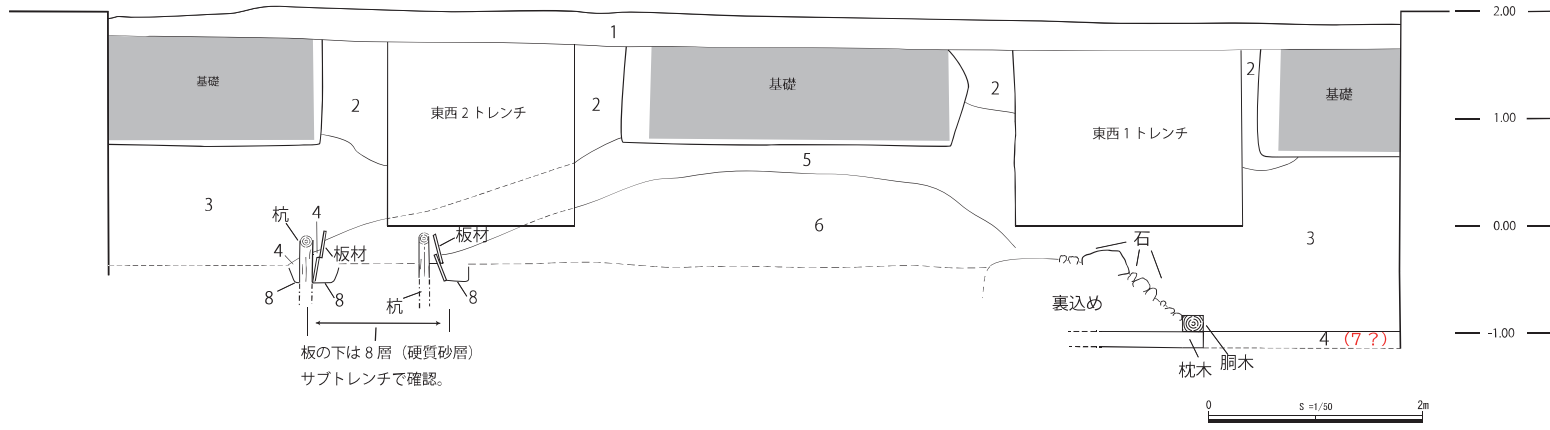


下絵「東京郵便電信局 東京市芝区全圖 明治29年12月調査」に事業計画・施工状況・試掘調査等を重ね作成

断面図 ※断面図上の杭・板等の一部は見通しで反映

南

北



- 1. コンクリート+碎石層
- 2. 暗褐色層 (大型のロームブロックを含む)
- 3. 黒色砂質土層
- 4. 黒色土層 (碎石を多く含む)
- 5. 黒色土層 (粘性、締まり共に強い)
- 6. 暗オリーブ色粘土層 粘性を縞状に含む。
- 7. 海砂層
- 8. 硬質砂層

平面図



①南側板列検出状況 (2025年1月30日撮影)

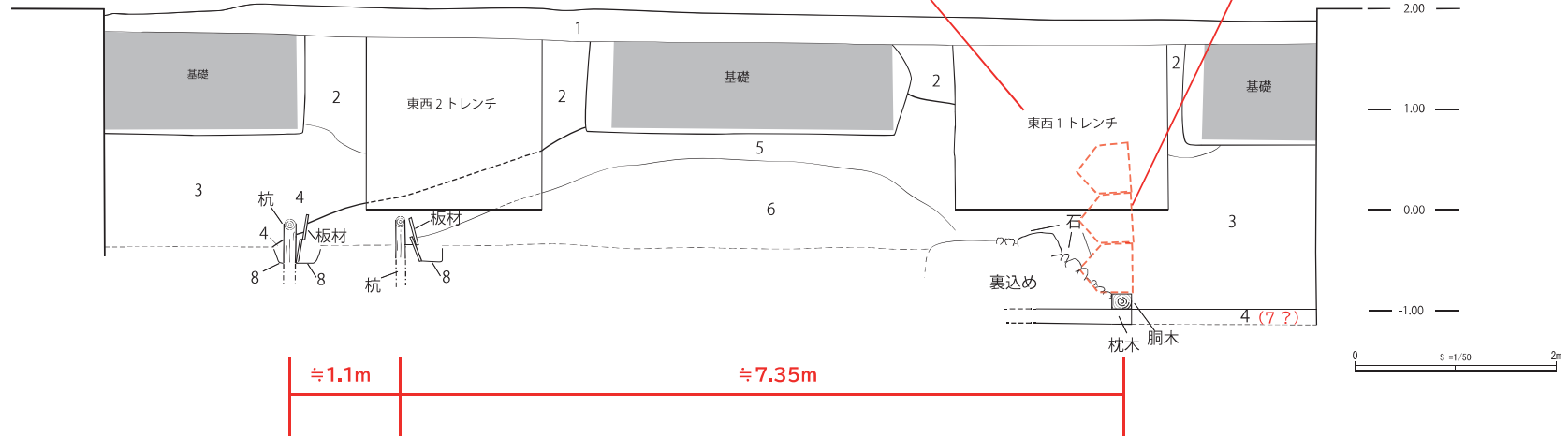


②北側裏込め、胴木等検出状況 (2025年2月26日撮影)

南

想定断面図

※断面図上の杭・板等の一部は見通して反映。
 ※土層説明は資料 3-2-2 を参照のこと。

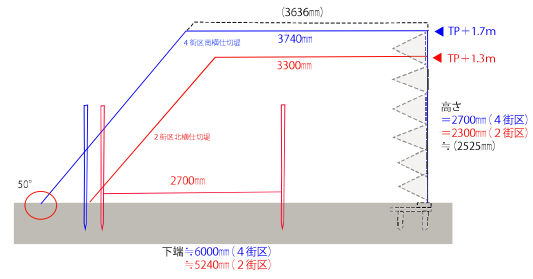


北

調査済の第7橋梁南北仕切堤

※赤は第7橋梁北横仕切堤、青は第7橋梁南横仕切堤。(数字は文献資料から計算(1尺≒30.3cmで換算))

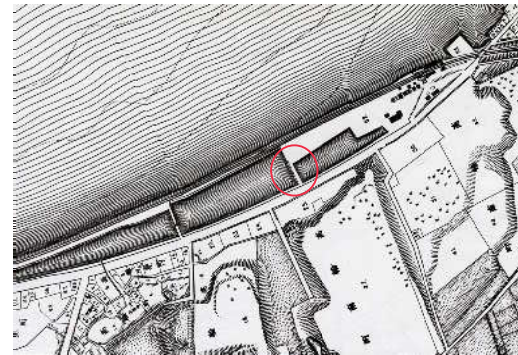
第7橋梁北横仕切堤
 長さ=30間
 高さ=8尺5寸
 上幅=2間



【南横仕切堤北面(4街区)】



【北横仕切堤南面(2街区)】



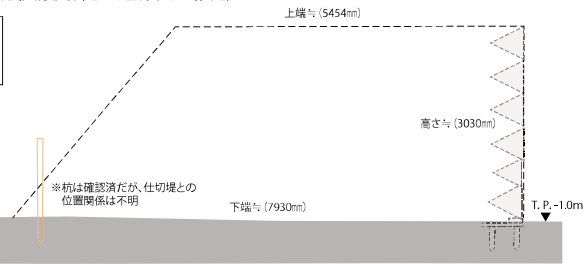
内務省地理局「東京実測図」(明治20年)



東京郵便電信局「東京芝区全図」(明治30年)

第8橋梁南仕切堤(文献資料と上記成果より推定)

第8橋梁南横仕切堤
 長さ=47間
 高さ=10尺
 上幅=3間



- ・南横仕切堤本体の土層=5層・6層と考えられる。
- ・近接するボーリング調査の成果(資料 3-2-4 参照)から、8層(硬質砂層)は基盤層に相当するか不明である。
- ・2層よりも上は、過去(時期不明)の工事による攪乱層か?(1層は工事用の碎石層)
- ・3層は、南横仕切堤を埋め立てた時のものであると考えられるが、南側の3層の解釈は今後の課題としたい。(拡幅に伴う盛土の一部である可能性があるため)
- ・断面図北側の3層と5層との関係は、本調査前に仮受工事に伴うライナー工事が入っていたため、不明である。
- ・遺構検出に伴い掘削を停止したため、硬質粘土層(高輪築堤の基盤層)は未確認。

